

令和8年度 小樽市立潮見台小学校 学力向上改善プラン

1 児童の実態

①前改善プランの定着目標の達成状況

- 前改善プランの児童アンケートで国語と算数が「好き」「分かる」と回答した割合や、学期末テストの定着の割合等の結果は次のとおりである。

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
国語						
「好き」	94%	79%	53%	58%	76%	78%
「分かる」	100%	89%	88%	67%	97%	90%
テスト	89%	90%	80%	79%	74%	90%
算数						
「好き」	82%	84%	72%	48%	76%	60%
「分かる」	100%	86%	89%	80%	81%	73%
テスト	90%	78%	78%	76%	73%	80%

- 上記の結果から、令和6年度と同様、学習内容は理解しているものの、好きではないという傾向が継続して見られる。学ぶ楽しさを自ら見出しながら、主体的に学習に取り組む授業改善や学習支援を行う必要がある。

②全国学力・学習状況調査結果（教科）

- 国語では、書いてある言葉や文、複数の資料を取り上げて、一定数の文字数の中で、自分の考えが伝わるように書くことに課題が見られた。日々の授業の中で、目的や意図に応じて、書いてある文章や複数の資料をもとに、自分の考えが伝わるように引用して書くなど学習に取り組み、書くことに慣れる必要がある。
- 算数では、小数や分数の数の表し方の仕組みや数を構成する単位、図形の性質などの基礎・基本の定着の部分や、示されている資料から、根拠を示して、自分の考えを説明したりすることに課題が見られた。どの学年でも、日々の授業の中で、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図りながら、基礎・基本の定着と単元の終末に設定されている「活用問題」への取組を通して問題解決する力を身に付けさせる必要がある。

③標準学力調査

- 国語は、どの学年においても、「書くこと」の領域が他の領域に比べ、大きく下回っていた。算数では、領域別に見ると目標値に達する学年が見られたが、観点別に見ると、「思考・判断・表現」において、どの学年でも目標値を下回っていた。

④その他

- 学期末テストの結果は、国語、算数どちらも目標値を下回った。既習事項の定着に向けて、定期的に習ったことを復習する場面を授業中や家庭学習などで設定する必要がある。

⑤全国学力・学習状況調査（児童質問）

- 普段、平日に1時間以上家庭学習をしている児童の割合は、全国平均と同程度となっていた。1日2時間以上、動画視聴やSNSをする児童の割合は、全国平均と同程度となっており、時間の使い方を家庭で意識して生活していることが分かる。

⑥家庭生活及び学習の状況等

- 前改善プランでは、家庭学習の目標時間と1日にテレビや動画などを視聴する時間の目標を設定し、取り組んだ結果は次のとおりである。

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
家庭学習 目標時間	97%	77%	62%	48%	71%	37%
テレビ等の 視聴	77%	50%	62%	48%	63%	37%

- 調査の結果から、家庭学習の時間に関しては、各学年によってばらつきがあり、ほとんどの学年が目標の時間を達成できていない。また、テレビや動画視聴に費やす時間についても、個人差が大きく、低学年でも2時間以上費やしている児童がいることから、児童や保護者と共通理解を図り、引き続き生活習慣の改善を促す必要がある。

2 学年ごとの定着目標（数値目標）

<国語科>

学年	定着目標
1年	・国語を「好き」と回答する児童95% ・国語の内容が「分かる」と回答する児童100% ・学期末テスト（読む・漢字・言語）95%
2年	・国語を「好き」と回答する児童95% ・国語の内容が「分かる」と回答する児童100% ・学期末テスト（読む・漢字・言語）95%
3年	・国語を「好き」と回答する児童85% ・国語の内容が「分かる」と回答する児童90% ・学期末テスト（読む・漢字・言語）90%
4年	・国語を「好き」と回答する児童80% ・国語の内容が「分かる」と回答する児童90% ・学期末テスト（読む・漢字・言語）85%
5年	・国語を「好き」と回答する児童80% ・国語の内容が「分かる」と回答する児童80% ・学期末テスト（読む・漢字・言語）80%
6年	・国語を「好き」と回答する児童80% ・国語の内容が「分かる」と回答する児童100% ・学期末テスト（読む・漢字・言語）80%

<算数科>

学年	定着目標
1年	・算数を「好き」と回答する児童95% ・算数の内容が「分かる」と回答する児童100% ・学期末テスト（知・技・思・判・表）95%
2年	・算数を「好き」と回答する児童85% ・算数の内容が「分かる」と回答する児童100% ・学期末テスト（知・技・思・判・表）95%
3年	・算数を「好き」と回答する児童85% ・算数の内容が「分かる」と回答する児童90% ・学期末テスト（知・技・思・判・表）80%
4年	・算数を「好き」と回答する児童80% ・算数の内容が「分かる」と回答する児童90% ・学期末テスト（知・技・思・判・表）80%
5年	・算数を「好き」と回答する児童80% ・算数の内容が「分かる」と回答する児童85% ・学期末テスト（知・技・思・判・表）80%
6年	・算数を「好き」と回答する児童80% ・算数の内容が「分かる」と回答する児童85% ・学期末テスト（知・技・思・判・表）80%

<学習・生活習慣（家庭学習等）>

学年	定着目標
1年	・家庭学習 学年×10+10 100% ・1日のテレビや動画などの視聴時間（2時間未満）80%
2年	・家庭学習 学年×10+10 100% ・1日のテレビや動画などの視聴時間（2時間未満）80%

3年	・家庭学習 学年×10+10 80% ・1日のテレビや動画などの視聴時間(2時間未満) 80%
4年	・家庭学習 学年×10+10 80% ・1日のテレビや動画などの視聴時間(2時間未満) 70%
5年	・家庭学習 学年×10+10 75% ・1日のテレビや動画などの視聴時間(2時間未満)・70%
6年	・家庭学習 学年×10+10 75% ・1日のテレビや動画などの視聴時間(2時間未満) 70%

3 目標を達成するための具体的な方策

(1) 基礎学力の確実な定着を図る取組

- ①一人一人が安心して考えを伝えられ、人と違うことも受け入れられる学級の雰囲気や、自己肯定感を高められるような教師の関わりを通して、「安心・安全」な教室づくりを全教職員で行う。
- ②学習規律の定着を図り、ルールを守って、誰もが安心して学ぶことができるようにする。
- ③基礎基本の確実な定着を図り、児童が自ら学ぶ意味や楽しさを味わい、主体的に学習できるような授業改善を行う。
- ④授業の中で、自分の考えを説明したり、条件に合わせて書き表したりする場面を設定し、表現力を高める取組を行う。

(2) 確かな学力をはぐくむ授業改善の取組

- ①「子どもが考える、伝え合う授業」づくりを基本とした校内研究を全学級で取り組み、主体的に学習に取り組む力を育てる。
- ②子どもたち同士で協働的に学び、交流を通して、自分の考えを広げ深める授業を構築する。
- ③授業の中で、学び方や解決方法、表現方法を選択したり、自己決定したりする場を多くの場面で取り入れ、個別最適な学びの充実を目指す。
- ④子ども自ら「やってみよう!」「だったら、次は!？」と主体的に学ぶことができるような単元構成や一単位時間の内容を工夫することで、学ぶ楽しさを感じられるようにする。

(3) 家庭と連携した学習習慣・生活習慣をはぐくむ取組

- ①年度初めに「潮小の家庭学習について」を配付し、学級開きの中で、児童と教員で家庭学習についての考え方や内容などを共通理解する場を設定する。
- ②学級懇談の中で家庭での時間の使い方や家庭学習の内容などを説明したりして、家庭学習について共通理解を図り、一年間を通して家庭学習への啓発を行う。
- ③テレビや動画視聴、SNSやゲームなどに触れる時間を減らすことができるような「マイナスプラスチャレンジ」に定期的に取り組み、生活習慣の改善を促す。
- ④家庭学習に自主的に取り組む力を高められるように、自主学習ノートの取組を推奨したり、工夫したノートの紹介や交流ができるコーナーを設置したりして、児童の励みとなる取組を行う。

(4) その他

- ①公的施設や民間企業に協力を依頼したり、専門的な知識を持った方をゲストティーチャーを招いたりして、学ぶことが好きになる児童が増えるよう計画を立て、実践する。
- ②総合的な学習の時間の中で、地域の特色・素材・場所を生かした授業を構築し、探究的な学習に取り組む。

4 実施計画

年月日	計 画 内 容
R 8年	
4月	・これまでの(前年度等)全国学力・学習状況調査の調査問題等の実施 ・チャレンジテスト(前年度問題)の実施 ○R 8全国学力・学習状況調査の実施 ○全国学力・学習状況調査 自己採点 ○標準学力調査実施(第3～5学年)
5月	・全国学力・学習状況調査の結果分析と改善策の提案
6月	○標準学力調査結果分析 ・チャレンジテスト(1学期末問題)の実施
7月	
8月	○R 8全国学力・学習状況調査結果分析
9月	○保護者への調査結果の説明
10月	
11月	・チャレンジテスト(2学期末問題)の実施
12月	
R 9年	
1月	・学力向上検討委員会「確認テスト」の実施 ・これまでの(前年度等)全国学力・学習状況調査の調査問題等の実施
2月	○学力向上改善プランの評価・改善 ○新学力向上改善プランの作成
3月	

5 評価方法

(1) 基礎学力の確実な定着を図る取組

- ①②児童アンケート、保護者アンケート等を通して定期的に学習規律の定着度合いや学習環境の整備状況等を把握し改善を図る。
- ③全国学力・学習状況調査、標準学力検査・チャレンジテスト、定着確認テスト等を分析し授業改善に繋げる。
- ④学級経営交流、研究授業事後検討を通して取組状況を共有し、好事例を普及するなどして改善を図る。

(2) 確かな学力をはぐくむ授業改善の取組

- ①②③全学級の授業公開と外部からの助言・評価により検証改善を図る。
- ④・全国学力・学習状況調査、児童アンケート、交流授業等により状況を把握・共有し、授業づくりに生かす。
・日々の授業での児童の姿、教職員アンケート等により分析し、単元構成や1単位時間の授業の工夫に繋げる。

(3) 家庭と連携した学習習慣・生活習慣をはぐくむ取組

- ①児童アンケート、保護者アンケートにより取組状況を把握し周知方法を適宜工夫しながら啓発を続ける。
- ②「マイナスプラスチャレンジ」の取組の様子を定期的に把握し児童の取組から好事例を普及する。
- ③④児童アンケート、保護者アンケートにより取組状況を把握し児童の取組から好事例を普及する。

(4) その他

- ①②教職員アンケート、学校運営協議会での意見交換等で検証改善を図る。